



復刊第173号
題字 吉岡彌生

巻頭言

副会長 石原幸子

新年明けましておめでとうござい
ます。皆様良いお年をお迎えの事と
存じます。長い不況と一触即発の世
界の緊張の中、日本のこの平和は何
ともありがたいことと感じます。百
周年の夢も瞬く間に過ぎて、今年の
5月は理事会の選挙、来年の夏は国
際会議と、息つくひまも無いほど忙
しい年となります。日本女医学会のさ
らに発展する機会にしたいものです。
このためにも、今回の選挙は重要な
意味をもってまいります。

選挙に関しましては、日頃いろい
ろご意見を頂戴いたしました。原
則は立候補制ですから北からでも南
からでも立候補することができま
す。適任と思われる方を是非ご推薦下さ
い。ただし、月一回、一年十一回の理
事会には出席できる方、中庸の意見
をもった常識的な方を、各支部から
推薦していただきたいと思いま
す。さて、女医の数も年々増加し、2
050年には男医とちょうど半々に
なるといわれております。男女共学
で過ごしてきた若い女医さんたちは、
「今さらなぜ女医学会」という問いが
多いのですが、医学界でも、社会の中
でも、私たちの主張や権利、活躍の
場を与えられる基盤となるのは、百
年の歴史を持つ日本女医学会にはかな
りません。私たちが一歩外に出たと
き、その誇らしさを体験いたします。
多くの立派な先輩たちが元気に活躍
されておられるのを見ると、エネル
ギーを与えられた思いが致します。
若い方々の入会を心よりお待ちいた
しております。

私は、平成10年より、日本医師会
と関わってまいりました。少子化
委員会、女性懇談会を四年間続け
てまいりました。女性懇談会終了
時、提言を持って坪井医師会長にお
会いした時「お約束どおり、女性を
常任理事(青井禮子先生、柳田喜美
子先生)に入れましたから、これで
よいでしょう」と言われました。毎年
答申やら提案をまとめて提出するの
は私にとって少々苦痛となっており
ましたから「まあこれで終わったの
だ」と内心ほっとしました。しかし
考えますと、日本女医学会との糸が切
れたことになると責任を感じました
ところ、昨年11月より、国民生活安
全対策委員会の委員となりました。
これは始まったばかりですからどん
なことをするのか、これからの議論
になりますのでわかりませんが、今
後順次ご報告したいと思えます。違
った意味で繋がりましたので、
今後につなげたい思いがしております。
す。このようにして、何のとりえの
無い私が委員に選ばれましたのも、
全く日本女医学会在籍のお陰と思っ
ております。入会以来二十数年、特
にこの数年間は私の人生の中では女医
会抜きには語れないほどの楽しい出
会いと大きな経験をさせていただき
ました。今、理事会では国際会議の
準備が始まっております。先年の会
議にもまして、皆さんによるこんで
いただくこうと張り切っております。
本年もよろしくご支援のほどお願い
申しあげます。

もくじ

巻頭言.....石原 幸子 (1)

〈年頭所感〉
大野 照子 (2)・宮本 佳子 (2)・深井登起子 (2)
大竹 輝子 (3)・村上 康子 (3)・秋葉 則子 (2)
杉本 睦子 (3)・和田 彰子 (3)・肥塚 典子 (3)
弓場 光子 (4)・中山真知子 (4)・野呂 幸枝 (3)
石川 知子 (4)

■第21回学術研究助成・研究成果報告
新規成長ホルモン(GH)放出促進ペプチド・グレリンの
遺伝子発現制御.....小野 昌美 (4)
リゾフォスファチジン酸を介する腎炎の
進展機構の解析.....永野千代子 (5)
Retinoidsの子宮内膜症における異所性内膜細胞に
対するchemoprevention効果について.....藤井 美穂 (5)

■「十代の性と健康」指導医養成講座 (第2回)
指導医養成講座のご報告.....加藤 笠子 (7)
声をあげる必要.....堀口 雅子 (7)
いのちのはじまり.....庄子 晶子 (7)
いつから、何を、どう教えるべきか.....波辺 久子 (8)
性と健康に関する科学的知識.....対馬ルリ子 (9)
女性医師に求められる科学的判断.....種部 恭子 (9)
学校教育の中で性の教育講演の取り組み.....堀本 江美 (10)
保健室からみえる十代の性.....後藤 昌子 (12)
こともの性ところ.....吉永 陽子 (13)
.....荒木 葉子 (13)

■平成14年度日本女医学会学術講演研修会
総合同会をして.....内沼 安子 (15)
学術講演研修会を開催.....井藤 英喜 (15)
高齢者糖尿病の管理の視点を問う.....佐藤 秋子 (16)
細胞の老化・死と個体の老化・疾病・死についての
基本的理解のために.....橋本 葉子 (17)
第26回国際女医学会議準備状況.....平敷 淳子 (17)
第53回WHO西太平洋地域会議に出席して.....平敷 淳子 (17)
第10回「中東女性交流」に参加して.....堀 郁子 (18)
第6回ブロック別懇談会に出席して.....堀 郁子 (18)
「日本消化器病学会女性医師・研究者の会」の紹介.....中澤 晶子 (19)
◇書籍紹介「介助犬を知る」.....橋本 葉子 (20)
「少女はすぐに母となる」.....山崎 康子 (20)
子連れ女医・フランス留学記.....増子(本郷)佳世 (20)
日中友好チャオユー女子合同登山隊2002.....橋本しをり (21)

* 選挙告示..... (9)
* 日本女医学会第47回定時総会のお知らせ..... (12)
* 新医学用語辞典..... (19)
* 理事会議事録..... (22)
* 会員動静/編集後記..... (24)

年頭所感

群馬支部 角田智恵子

新年おめでとうございます。昨年、百周年の記念式典には皇后陛下のご臨席を仰ぎ、深いご理解とお励ましのお言葉に、ますます女医学会の使命の重さを感じました。

国内外の情勢は緊迫の一途を辿っており、なにかと打聞して世界の平和が訪れるよう切望してやみません。

一昨春秋、私たち群馬会員有志は明治時代に移築された荻野吟子先生生家の長屋門を見学しました。由緒正しい古刹光恩寺境内に建っている遠くからも白壁の長屋門は見渡せませんが、近づくると白壁や天井ががれ修理解体の直前でした。寺内には阿弥陀三尊、本堂、竜王画、江戸時代の梵鐘など、文化財が数々あり、長屋門復元の暁には、文化庁有形文化財とともに、荻野吟子先生の名声は後世に伝えられると確信しました。

埼玉支部 深井登起子

2003年あけましておめでとうございます。

昨年創立百周年事業の数々が大成功に終わったことは、橋本会長はじめ理事、会員すべての努力の結集によるものと誇りと自信を持って心からお慶び申し上げます。

埼玉支部は、公開講演会が四回目になりました。昨年は、東京女子医大第二病院泌尿器科巴ひかる先生による「女性の尿失禁」でした。会場からの質問が相次ぎ、男性婦人科医師のコメント、漢方治療についての質問など、多彩で活発な場面が展開されました。また中学校での「性の学習会」では、女医会作製のビデオ「わたしとあなたの大げなことを」を大いに活用して好評でした。女性医師特有の視点から社会のニーズに対応した活動が期待されていることを感じます。

本年は支部創立45周年になりますので記念誌発行に向けて準備中です。忙しい年になりそうです。よろしくお祈りいたします。

栃木支部 大野照子

おめでとうございます。

昨年は、日本女医会創立百周年祝典が盛大に行われ、男性優位の時代を克服された諸先輩の健闘の歴史に刻まれた世紀の終りの記念の年でありました。

私たちの第二世紀の出発は、医師の世界の男女差をなくし、また女医ならではの分野への活動の世紀であろうと思えます。共学も五十余年、若い医師たちには男女平等の意識が滲透してきており、医師会役員にもためらうことなく優秀な女医さんが選ばれる風潮が湧いてきました。そこで、引受けた以上、女性としては家庭の事情に左右されずに最後まで職責を完うする覚悟が大切だと思えます。

また、女性専門外来、痴呆防止の趣味講座等々も取りくみたいと思えます。

大阪第2支部 肥塚典子

新春をおめでたく迎えられたことと思えます。

期待の21世紀も、世界中が騒然としなにかとあわただしく、不安定の日が多いようです。今年こそ国も私たちが平和で明るい前進の夢を見ることのできる暮しができることを期待し、祈りましょう。

神奈川支部

大竹輝子

謹んで新年のご挨拶を申し上げます。21世紀も早三年目に入りました。

例年今年こそは……の意気込みで出発点に立ちますが、さて今年はどうなるか。昨年は年頭からワールドカップのサッカーに湧き立ち、景気が良いかのように思われましたが過ぎてみまると台風が去ったあとのようです。でもあの時ほどアジアが一丸となつてもり上った事は近い過去には無かつたようです。日本女医会はそれにもまげず百周年の記念行事を着々と進め、日本中の力の結集で大きな成果を得る事ができました。皆が団結するという事はすばらしい事だと思えました。また政治の面では医療改革、拉致問題、経済不況の回復と数知れない問題点の山積にどうなる事かと不安にかられますが、私どもとしてはまず自分の足許から処理して行くより他ありません。高齢社会の医療のしめつけにもめげず、日々の診療に誠心誠意対処する事こそわれらが使命と思っております。

大阪第1支部

村上康子

旧い年は去りました。昨年中のた

び重なる事件に心痛み、新年の祝詞を述べる事のためらいをおぼえます。拉致問題の渦中にある方たちの苦渋と不安はいかばかりか、またたいへんな困窮と不自由の中にあるかの地の人々のこと、さらに開発途上にある国や紛争下にあつて、予防可能な感染症のために生命を失う子どもたちの数のおおさに愕然としております。

私が生きた七十六年の月日の中で、もつとも喜びを得たのは、あの敗戦の夜、明々と燈された燈火を見たときでありました。平和の到来を全身に感じたあの感動を今も忘れません。世界の平和を心から祈り願っております。

茨城支部 宮本佳子

現在不自由の無い暮しの中で、時折しるめたさをおぼえます。しかし周囲の人たちに助けられながら今の私に何ができるのか、しっかりと見極めたい気持ちです。

百周年という事業に参加したこと

は、地域医療に携わる女性医師として地域社会に根ざした医療とは何かとそのあり方を改めて見つめ直すことの大切さを知ることができたよい機会であつたと思えます。

介護保険制度が施行され二年目を迎えたところですが、地域における介護保険の開始は地域の医療、福祉の上にもたまたま教育、養育の上に大きな影響をおよぼしてきました。

千葉支部 秋場則子

新年明けましておめでとうございます。日本女医会創立百周年において千葉県から稲葉美佐子先生が荻野吟子賞を受賞いたしました。本当にありがとうございます。この受賞が当支部の先生方の今後の励みとなり、目標となることでしょうか。自分のまわりを見てみると2002年はとてもぎやかで、忙しく

地区でお世話をしている「大正区ふたば会」、四十周年の記念の集いを持ちました。「母と子の健康を守り家庭を明るく」のテーマで活動をつづけてきたこの会も、三世代の会員になり、四十周年の歴史の重さを感じました。少子化になったのに、子どもたちが大切にされていない現実にもう少し目をむけて真剣な努力が必要なのは……新春に祈っております。

大阪第3支部 杉本睦子

日本女医会百周年記念式典に参加し、会の繁栄を祝福し、女医として働ける幸福や責任を痛感しました。

あけましておめでとうございます。今年こそは真に世界中が平和で、穏やかな年に優しい明るい年になることを心より願っています。

医療制度はますます混迷を深め、先人が営々として築いてきた世界に誇る国民皆保険が今まさに崩壊寸前にあるといつても過言ではありません。何人も平等に同じ医療を受けることができるということは本当にすばらしいことです。

このすばらしい制度を維持していくために、消費税等の税金の上がることに閣議に反対するだけでなく、高い税金を支払う代わりに、老後の

とまりのない年でした。

千葉県に堂本暁子女性知事が誕生して女性の健康問題を前面に掲げ、私たち女医の出番がやたら多く、振りかえつてみて何一つまとまっていない。年が改まってこれらの一つでも形としてまとまるのか、また引き続き継続してやっていけるものがあるのか心配です。まずは保健所で始めた「女性の健康相談窓口」に女性医師が参加、協力して、各保健所での印象が大変よく相談者にも担当者にも喜ばれています。今年も回数を増やしてほしいと要望がありました。今後女医会としての協力もお願いされることもあると思います。できる範囲で対処していくつもりであります。

会員間の交流は新年会、旅行で深めております。楽しいひとときを持ち、次回どこへ行きましようかと計画に夢ふくらませています。支部会総会には新入会員の先生と先輩の先生の交流が楽しい会話が進みます。会が終わって帰るときには元気をもらっています。

元来女性性は平和主義、争いごとは好みません。今、世の中の話題は争いごとが多すぎます。女性が声高らかに「平和」を叫び、人と人のつながりが真実で結ばれればと願います。各支部をはじめ、日本女医会のみならずの発展をお祈り申し上げます。

大阪第6支部 野呂幸枝

日本女医会創立百周年記念式典・祝賀会の立派なご成功をお祝いいたします。昔の国際女医会東京会議、京都会議をなつかしく思い出しています。

私は小学生のころ、「少女女学生物語」という本の中で吉岡彌生先生を知り、関西医科大学卒業(当時女医専)の春、吉岡先生が来阪され日本女医会の説明をなさいました。1967年には吉岡彌生賞をいただきましたので、日本女医会とは深く長い関係を持っています。現在では大阪支部連絡会を開き、「女医だからできる問題」を中心に勉強しています。

わたし個人では「医人と地域の人々」との立場でいろいろの組織に参加し、ボランティア活動をしてきましたが、四十五年間大学内生活をしてきた私には、発見と学ぶことが多い毎日です。

ただ今は半年間のはげしい練習をして、ベートーヴェン交響曲第九番のコーラスに参加し感激中です。

大阪第7支部
弓場 光子

初春のおよごびを申しあげます。今年は一ひつじ年で、元来十二支は家の守り神として古くから扱われてきました。ひつじは元々大人しく、かつ総明さを備えた動物の中の君子だ

そう、また芸術的な才能が優れているそうです。さて昨年5月18日、日本女医会百周年、同年9月29日は大阪女医会創立五十五周年式典と、至福の年でした。しかし、おめでたいことばかりでなく、幸、不幸と道を曲がると視界が二つに分れます。しかしこの時代こそ、女性のパワーを持って、社会的、国際的に、物静

日本女医会第21回学術研究助成・研究経過報告

新規成長ホルモン(GH)放出促進ペプチド、グレリンの遺伝子発現制御

東女医学内支部 小野 昌美

【目的】

1999年国立循環器病センター研究所の児島らは、GH分泌惹起因子(GH secretagogue)受容体の内在性リガンドである二八個のアミノ酸から成るペプチドを単離しグレリン(Ghrelin)と命名した [Share & Brown (成長) の意味]。その後彼らのグループにより、下垂体ホルモンではGHの分泌を特異的に促進する以外に、グレリンは胃酸の分泌や胃の蠕動運動を刺激することが明らかとなった。グレリンの発現レベルは圧倒的に胃

融合遺伝子を導入したヒトGH遺伝子導入ラットを用いた。胃を全摘し大彎に沿って切開、洗浄した後、噴門部、胃体部、幽門前庭部の各領域にわけて分割採取した。各領域のRNAはAGPC法で抽出し、グレリンの遺伝子発現レベルを、独自に開発した感度と特異性に優れたRNase protection assayで測定した。

近年女医会への入会が減少の一途であり、とりわけ若い先生方で著明であるようです。女医という職業は恵まれた地位と名譽、そして尊敬を手にできる職業の一つではないでしょうか。無論、家庭と職場の両立や医療現場での苦勞は計り知れぬもの。女医さんの中には男性と同等の処遇を受け能力を発揮できるため、女性で有意に回復した。

差別は感じないという方もおられます。しかし、あたりを少し冷静に見渡して見ると女性への差別は日本でも他の国でも厳然と存在しています。女医として女性が幸せになるための活動に微力でも力を尽くせたらと願っています。

【方法】 GH欠損症としては、GH遺伝子の点突然変異によりGHが欠損した成熟雄性SDRラットを用い、GH過剰症としては乳清酸性蛋白遺伝子のプロモーターとヒトGH遺伝子の

【結果と考察】 胃におけるグレリン遺伝子発現は領域で異なり、胃体部で最も高く濃度に発現しており、胃底腺が分布する胃体部が主要なグレリン産生領域であることがわかった。胃体部のグレリンmRNAレベルは、対照の正常ラットと比較してGHが欠損したSDR群で有意に増加していた。この増加は、六日間わたるhGHの補充によりほぼ対照群のレベルま

研究助成をたまわり、以上のような研究成果をあげることができました。この研究成果を今後さらに発展させ、新たな診断、治療法の開発に進むことを切望いたします。最後に、本研究助成をご推薦くださいました主任教授の高野加寿恵先生をはじめ女医会の先生方へ心から感謝申し上げますとともに、今後とも指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

京なれや まして祇園の 事始 これは京都祇園の事始の風情を詠んだものです。新しい年の事始は心に張りや華やきを与えてくれます。今年から私が京都支部長を務めさせていただくことになりました。よろしくお願いいたします。長い間支部長をしていただきました岩崎順子先生には心よりご苦勞さまでたと申しあげたいと思います。

【方法】 GH欠損症としては、GH遺伝子の点突然変異によりGHが欠損した成熟雄性SDRラットを用い、GH過剰症としては乳清酸性蛋白遺伝子のプロモーターとヒトGH遺伝子の

【結果と考察】 胃におけるグレリン遺伝子発現は領域で異なり、胃体部で最も高く濃度に発現しており、胃底腺が分布する胃体部が主要なグレリン産生領域であることがわかった。胃体部のグレリンmRNAレベルは、対照の正常ラットと比較してGHが欠損したSDR群で有意に増加していた。この増加は、六日間わたるhGHの補充によりほぼ対照群のレベルま

研究助成をたまわり、以上のような研究成果をあげることができました。この研究成果を今後さらに発展させ、新たな診断、治療法の開発に進むことを切望いたします。最後に、本研究助成をご推薦くださいました主任教授の高野加寿恵先生をはじめ女医会の先生方へ心から感謝申し上げますとともに、今後とも指導とご鞭撻をよろしくお願い申し上げます。

私の家の近くにある南禅寺には、山門を 入れば涼風 自ずから という句碑があります。京都支部も会員が集まれば「涼風自ずから」となって、楽しく有意義と思えるような支部でありたいと思っています。ご協力宜しくお願いいたします。

大阪第8支部

中山 真知子

新年おめでとうございます。

京都支部

石川 知子

リゾフォスファチジン酸を介する腎炎の進展機構の解析

宮城支部 永野 千代子

本研究はヒトの増殖性糸球体腎炎の進展機構としてのメサンギウム細胞の増殖機構の解析を目標として行われました。ラット初代培養メサンギウム細胞を用いたin vitroの実験系においては、メサンギウム細胞増殖は血小板由来増殖因子(PDGF)とリゾフォスファチジン酸(LPA)の相乗作用によりもたらされます。この過程をより詳しく解析しますと、PDGFが細胞分裂と細胞死という相反する二つの現象を同時に強力に誘導するのに対し、LPAの増殖作用はごく軽微であり、かわりにPDGFによりもたらされた細胞死をほぼ完全に抑制することにより細胞数を相乗的增加に導く細胞延命因子であるということがわかりました。さらに、電子顕微鏡を用いた分析、あるいは、分子生物学的解析により、PDGFによるメサンギウム細胞死はアポトーシス機構、すなわち、核断片化を主体として起ることがわかり、また、LPAによる細胞死の抑制過程は、細胞延命遺伝子産物であるBcl-xLという蛋白により媒介されるといふことも明らかとなり

られます。残念ながら、今回の研究中に行ったHPLCを用いた解析によつてはヒト腎炎患者の尿中からはLPAの検出は不能でしたが、今後、ぜひとも精度を上げて、その存在を証明したいと思っております。LPAは腎糸球体微小循環において活性化された血小板から多量に分泌されるのみならず、障害を受けた血管内皮細胞やメサンギウム細胞自身の細胞膜内からも産生・放出されていると考えられますので、LPAの産生を抑制

することによる新しい腎炎治療薬開発が期待されます。一連の研究結果は、最近、総説として「LPA, as a determinant of mesangial growth and apoptosis」, Seminars in Nephrology 22: 415-422, 2002にまとめて執筆しております。貴重な研究助成金をいただきましたことをご心より厚くお礼申し上げます。

以前筆者らはin situ zymographyの結果から、癌組織と同様子宮筋症組織中にはgelatinase 活性をもつproteaseが存在し、このproteaseはMMPsであることが報告された。今回の研究結果から子宮筋症の異所性内膜細胞にはMMP-2,7,9およびMMP-2,7,9mRNAが発現し、浸潤に関与している可能性が示唆された。一方Chemopreventive agentsであるビタミンAがマウスの実験系で異所性子宮内膜の浸潤抑制効果を示すことが明らかになり、MMPsの発現に対しビタミンAが関与している可能性も推定される。今後はこれら相互の関与形態を解明していきたい。

Retinoidsの子宮内膜症における異所性内膜細胞に対するchemoprevention効果について

北海道支部 藤井 美穂

Introduction

子宮内膜細胞が異所性組織中に浸潤する子宮内膜症・子宮筋症の進展様式は癌細胞の浸潤様式に類似することから腫瘍性疾患と考えられ、異所性内膜細胞のDNA変異、浸潤に関与するproteaseの発現などが報告されている。本研究ではchemopreventive agentsとして種々の癌組織でその有効性が知られるretinoidsのmatrix metalloproteinases (MMPs)を介する異所性内膜細胞の浸潤に対する効果を検討した。

SHN系雌マウスの離乳直後からパルミチン酸レチノール添加食餌(4mg/100g)を投与した群(ビタミンA群)、非投与群(コントロール群)の生後七、四、五、六日目の子宮を摘出し、ホルモリン(免疫組織染色用)および4%パラホルムアルデヒド(in situ hybridization法用)で固定後パラフィン切片を作製した。

抗ヒトMMP-2,7,9抗体を用いた免疫組織染色法にてMMP-2,7,9S組織内発現を観察した。

Methods

(1) 組織標本作製法

(2) 免疫組織染色

(3) in situ hybridization法

「健やか親子21」関連事業
 「十代の性と健康」指導医養成講座 〔第2回〕

主催：社団法人 日本女医学会
 協力：性と健康を考える女性専門家の会

虎の門病院・産婦人科
 医師 堀口 雅子

「十代の性と健康」指導医養成講座のご報告

子育て支援小委員会委員長 加藤 竺子

虎の門病院・産婦人科
 医師 堀口 雅子

増えていることの現状を憂慮する声
 が強く聞かれました。

今、十代のころとからだに何が起きているか。

学校から健康に関する講演を依頼されるが、そのテーマの変遷は見事に時代を反映している。「月経・体重減少性無月経」から、最近では「妊娠・避妊」、「性感症とその予防」となり、対象も高三から高一、さらにそれでは間に合わないかと中学にま

下がっている。夏休み後に増加する「望まない妊娠、性感症」を予防するため、7月、あるいは卒業直前の講演依頼が多い。女子校重視から、やっと男子校にも必要性が認められた。共学では男女同席で効果をあげている。

統計では、高校生の性体験率増加（特に女子）が著しく40%を超え、大学生は入学と共に急増する。未婚

女性初体験のピークが十六〜七歳であるから、既に十二歳で始まっているもおかしくない。性行為は特別なものでないからパートナーは変り、数も増す。このような性行動の活発・多様・低年齢化は、妊娠・性感症罹患率の増加につながる。

初体験で避妊を行ったのは50%前後、「言い出せなかった。妊娠すると思わなかった。膣外射精」など、無知そのもの。女性全体の人工妊娠

開会のことば
 基調講演「今十代のころとからだに何が起きているのか」

「いのちのはじまり」 大田区立池上小学校教諭 庄子 晶子
 「いつから、何を、どう教えるべきか……小児の発達心理と性教育」 慶應義塾大学小児科 渡辺 久子
 「性と健康に関する科学的知識―避妊や性感症に関する偏見をなくすために―」 ウィミンズ・ウエルネス 対馬ルリ子
 「女性医師に求められている社会的役割」 富山医科薬科大学産婦人科 種部 恭子
 「学校教育の中での性教育講演の取り組み―札幌の場合―」 川島産婦人科 堀本 江美
 札幌東高校養護教諭 後藤 昌子
 長谷川病院精神科 吉永 陽子

《プログラム》

日本女医学会会長 橋本 葉子
 虎の門病院思春期外来 堀口 雅子
 大田区立池上小学校教諭 庄子 晶子
 慶應義塾大学小児科 渡辺 久子
 ウィミンズ・ウエルネス 対馬ルリ子
 富山医科薬科大学産婦人科 種部 恭子
 川島産婦人科 堀本 江美
 札幌東高校養護教諭 後藤 昌子
 長谷川病院精神科 吉永 陽子

中絶率は減少しているのに二十歳未満は、十年間に急増している。

機会あることに性感症の危険性を伝えるが、「性感症？エイズ？」と、他人事のようにである。エイズ以前に、クラミジア・淋菌・ヘルペスその他の感染症が増加している。性器の構造上、女性の方にその影響は強く、不妊、胎児・新生児感染等世代にまで及ぶ。男子はアダルトビデオを教科書とし、オーラルセック

本当に求められている「こと」や「もの」。

医療のニーズを正しく把握し、
 バイオ技術の追究を通じて、夢を現実にしていく。

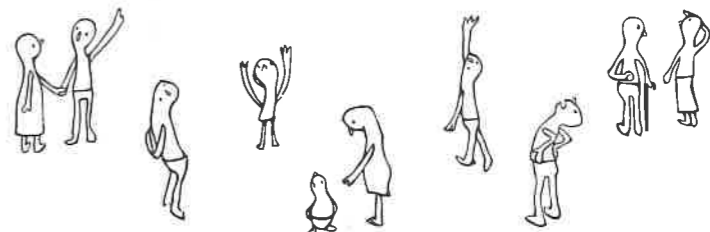
キリンは、新たな医療価値の創造に
 全力で取り組んでいます。

キリンビール株式会社 医薬カンパニー 〒150-8011 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号

KIRIN 新鮮な明日へ



未来を拓く。



本当に求められている「こと」や「もの」。

医療のニーズを正しく把握し、
 バイオ技術の追究を通じて、夢を現実にしていく。

キリンは、新たな医療価値の創造に
 全力で取り組んでいます。

キリンビール株式会社 医薬カンパニー 〒150-8011 東京都渋谷区神宮前6丁目26番1号

スを要求する。女子もさらわれたくないと要求にしたがう。その結果、

いのちのはじまり

大田区立池上小学校

庄子晶子

性教育には欠かせない学習テーマがあります。どれもこれも欠かせないものではないですが、その中でも

大人と異なる視点の性教育をきちんと行いたい。性教育の視点を持った

このプランは、授業での問いかけや、どのように話すかといかという

いつから、何を、どう教えるべきか

小児の発達心理と性教育

慶應義塾大学小児科学教室

渡辺久子

「十代の女子の頭痛腹痛は妊娠を疑え」と今日小児科医は語りあう。

この模擬授業を見た高校の先生からは、「私たちの実態からすると

このコミュニケーションの断絶こそ深刻な問題である。十代の中絶は

不妊症、産後抑うつ、育児障害、虐待にもつながる。若者の性行動の歪

その息子は父親に同一化できぬまま成長して、父親と同じような夫婦関係を再生産する。

性と健康に関する科学的知識

避妊や性感染症に関する偏見をなくするために

ウイミンス・ウエルネス銀座クリニック

対馬ルリ子

性の価値観が変化し、世代を超えて性の倫理観、道徳観を話し合うこ

ヘルスケアアドバイザーとしての自覚若者へのヘルスサポートにあ

この方法は、欧米の先進国が数十年前から取り組んできた方法でもあ

つまり、年齢が幼く、また、精神的、社会的に未熟なものに対しても

親も教師も性に関する正しい知識や認識を持たないために、子どもた

全な使い方、エビデンスが確立されたホルモン薬である。

告示

日本女医学会定款第二十四条に基づき、平成十五年五月十七日(土)・京王プラザホテルにおいて、平成十五年定時総

選挙に関する定款および定款施行規則の抜萃

定款第十四条 理事二十一名以上二十五名以内

定款施行規則第七条 選挙人は、選挙の九十日前までの

立候補届出に関する書類(一)、(二)は、本部にあります。お申し込み次第お送り致します。立候補は、自薦のみです。

女性医師に求められている社会的役割

富山医科薬科大学産婦人科
種部 恭子

若者の性行動の活発化・若年化、それに伴う若者の望まない妊娠や性感染症の増加、性情報の氾濫と情報通信の発達による性の問題のグローバル化、こころの教育や家族の問題を反映した摂食障害の増加など、十代の健康を守るための早急な対応が望まれている。

女性医師に、何が出来るだろうか。まず一つは、信頼できる情報の提供である。

若者も確かな情報が必要としているが、現在、若者にとっての最大の情報源はメディアである。氾濫する性情報から、正しい、役に立つ知識を取捨選択することは非常に困難である。メディアの情報に凌駕するほど、性に関する多くの信頼できる情報を与えることがわれわれの役割である。

もう一つは、性のトラブルの受け皿になることである。

大人だって、女性なら、女性に診て欲しいという希望が多いのであるから、中高生にいたってはより受診しやすい環境を作ることが早期対応

きるこの教育を実現させるオピニオンリーダーになり、地域を引っ張っていくことである。

性教育は、自己決定能力、生きる力を養うことから始まる。避妊や性感染症予防の知識があっても、使おうとしなければ全く意味がないからである。生きる力の教育は、小学校や、さらに幼い頃、家庭での教育からはじまる。これには、母親の役割が大きいところであるが、お母さんたちへの啓発も、女性医師が力量を発揮する部分である。自らがワーキングウーマンであり、妻であり、嫁であり、母であり……といった、女性医師ならば、自己の経験を持って、社会背景を理解し、健康教育につなげることが可能である。

地域の中に、子どもを育むすべての人・職種のネットワークを作ること、系統的な「性と生の教育」が可能になる。

学校教育の中での性教育講演の取り組み

札幌市・苗穂レディースクリニック
堀本 江美

平成7年、自分が育った地域で、二歳児の子育てを楽しみながら、実父の経営するクリニックで産婦人科医をはじめました。それまでは、学

位論文に学会と専門分野に尽力しつつ、臨床的には流れ作業のなかで手術や分娩をこなし、「患者をさばっていく」といった多忙な毎日でした。

たので、社会での自分の役割など考えたこともありませんでした。まもなく、医師としての使命感を強く感じさせられるできごとがありました。性犯罪の犠牲となった女子中学生の診察を地元警察から依頼されたのです。それは、学校行事を巧妙に利用した許せない事件でした。中学二年生のその少女は、自分がレイプされていることに気付いていませんでした。

レイプの犯人から「治療」といいふくめられたその少女は、それが性行為であることさえ理解していませんでした。彼女が、普通の中学生です。しかも、その子が特別だったのではありませんでした。多くの少女が性行為を理解しなかつたのです。少女たちはあまりにも無防備でした。なぜ、なにも教えられていないのか。現場を目の当たりにし、たいへんなショックを受けました。

それから多くの事件の被害者の診察を担当し、そのような悲惨な事件の多さ、むごさは衝撃そのものでした。性犯罪をなくすためにはどうすれば良いのか。自分に何が出来るのだろうか。

熟慮の末、二つの目標ができました。現場で起きていることを社会に知らせること、子どもたちに性の知識を授けることです。幸い、札幌市教育委員会からの要請で、産婦人科

医が学校に出かけて講演をする制度がありました。学校に出かけてみて驚いたのは、教師のほうが強く反応して個人的な悩みを相談されることが多く、性教育とは生きることそのものであると感じるようになりまし

た。今では直接、個人的に講演依頼されるが増え、そのニーズの多さに別の問題を感じています。学校での性教育講演により、地域の学校とのネットワークの構築が容易となりました。熱心な教師たちと連携することで子どもたちのためのより良い環境作りを注いでいます。

では学校での講演の要旨をご紹介します。対象者は幼稚園児から大学生や教師、PTAの親たちです。小学生にも避妊法について簡単に解説する事を北海道教育大学の学生に話したところ、次のような質問がありました。「先生は小学生にも避妊を教えるそうですが、ということは小学生のセックスを認めるということですか。」これには私もビックリしました。もちろん私は小学生や中学生高校生にセックスを勧めているのではありません。しかし彼らは理解できないようなので実例をあげて説明します。たとえば道端にコンドームが落ちていて、小学生が拾って危険な病気に感染することもあると交通安全のルールを教えるのと同じように正しい性の知識を教えること

は、子どもを守ることである。そして、正しい知識、つまり何が危険なのかを学んだ子どもは好奇心だけで軽はずみにセックスしたりしないのだ。

また講演の対象者の数によって話し方を変えています。体育館に50人などという場合は、特に中学生には、まず「セックスはおとながするもの、あなたたちはしてはいけません」とお話しします。たくさん生徒のなかには先ほどの大学生のように誤解する子どももいるからです。小人数なら、会話のやりとりしながら修正できますが、大人数では難しいからです。もちろん性についての自己決定を否定しているものではありません。

そして、すでに毎日のようにセックスしている中学生にそんなことを言っても何の役にもたないことを私も知っています。相手にあわせて柔軟に対応していくのが肝要であると思います。そして、講演後にアンケートをとり、どのくらい理解されているかを調べ、誤解があった点や不足分は担当教諭に補足修正してもらっています。性教育は難しいと思います。

失敗を繰り返しながら、積み木を積むように、あの手この手でアプローチして正しい理解を育てていくものであると考えております。



Yamanouchi
Gaster D

He受容体拮抗剤 (ファモチジン口腔内崩壊錠) 薬価収載
指定医薬品 **ガスターD錠** 10mg 20mg

■禁忌、効能・効果、用法・用量、使用上の注意等については、製品添付文書をご参照ください。
製造発売元【資料請求先】山之内製薬株式会社 〒103-8411 東京都中央区日本橋本町2-3-11



アンジオテンシン変換選択性阻害剤 薬価基準収載 **2.5 5 10**
タナトリル錠
Tanatril (塩酸イミダプリル製剤)

【指定医薬品】 【要指示医薬品】 注) 注意-医師等の処方せん、指示により使用すること
※効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については、添付文書をご参照ください。

<資料請求先>
田辺製薬株式会社
大阪市中央区道修町3丁目2番10号
http://www.tanabe.co.jp/

2001年10月作成

保健室からみえる十代の性

札幌東高校定時制

後藤 昌子

性に関する問題行動(心身ともに健康を損う)は年々変容しながら増加傾向にあります。女子生徒は、異性との出会い(関係)でいとも簡単に進路変更(退学等)を選択します。相手(彼)が唯一の理解者になりさみさを埋めようと、「愛し合っている」と、大きな勘ちがいを繰り返します。保健室には、月経不順、月経痛、妊娠の不安、性感症の心配、男女交際の悩み、避妊、容姿セクハラ(異性・同性・教師)への怒り、性器に関する事など、さまざまな「性に関する相談」が持ち込まれます。

性行動の低年齢化、望まない妊娠の増加ですが、この十年間で、在籍中に二人の生徒が産出し、卒業して行きました。生徒たちのおしゃべりを通じて、中絶の情報も入ってきました。私たちが思っている以上に中絶経験者は少なくありません。幼児期より発達段階に応じた性教育の必要性を痛感し、私たち大人がもっともつと性的に成熟し、科学的に答えをあげることが大事だと思ひ知らされ

性に関する問題行動(心身ともに健康を損う)は年々変容しながら増加傾向にあります。女子生徒は、異性との出会い(関係)でいとも簡単に進路変更(退学等)を選択します。相手(彼)が唯一の理解者になりさみさを埋めようと、「愛し合っている」と、大きな勘ちがいを繰り返します。保健室には、月経不順、月経痛、妊娠の不安、性感症の心配、男女交際の悩み、避妊、容姿セクハラ(異性・同性・教師)への怒り、性器に関する事など、さまざまな「性に関する相談」が持ち込まれます。

これらの現実を目の前にして、私たち大人が期待すること、願いは、成長期にある子どもたち誰もが、賢い選択をするだけの知識を持つこと、健康であるということです。そのためには、やっぱり教育だと思います。あきらめず、あきれ返るだけでなく、大人のメッセージを送り続けることが大事だと思ひます。

本校では、六年前より、外部の専門家の協力を得て、「性講話」を実施しています。今年度は発達段階に応じたテーマで学年別に実施して見ました。

見えたもの、聞こえたものの中には、交際相手との喧嘩、容姿への言葉の暴力、過度の身体接触(プライベートゾーンの区別がでず教室や廊下でベタベタと身体接触)、ひわいな会話、携帯電話の普及(影響)で、メル友との出会いも広がり、性感症をうつされ、家族には絶対いえないと言って、本人と養護教諭二人で産婦人科医院に行くこともあり

ます。

新しい年を迎え、諸先生にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申しあげます。

第48回日本女医会定時総会は、東京において左記の予定で開催いたします。

今年度は日本女医会の役員改選の年でございますので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご出席を賜りますようお願い申し上げます。

社団法人 日本女医会会長 橋本 葉子

社団法人 日本女医会 後藤 昌子

日時 平成15年5月17日(土)

場所 京王プラザホテル

〒160-8333 東京都新宿区西新宿区二丁目一

電話 〇三(三三四四)〇一一一

評議員会 午前9時30分〜12時(昼食を含む)

選挙 午後1時〜2時

総会 午後2時〜3時

講演会 午後3時〜4時30分

講演会終了後懇親会 会費一〇,〇〇〇円

※時間は多少変更する可能性があります。詳細は次号にてお知らせ致します。

評議員会および予備評議員の改選

定款施行細則第24条により各支部において、評議員一名、予備評議員一名(再選可)を選出され、平成15年3月末日までに本部にお届けください。なお、新評議員および新予備評議員の任期は、平成15年4月1日より平成18年3月31日までとなります。

東京支部連合会による行事

5月17日(土) お茶席

社団法人 日本女医会第48回定時総会のお知らせ

新しい年を迎え、諸先生にはご清祥にてご活躍のこととお慶び申しあげます。

第48回日本女医会定時総会は、東京において左記の予定で開催いたします。

今年度は日本女医会の役員改選の年でございますので、皆様お誘い合わせの上、ぜひご出席を賜りますようお願い申し上げます。

社団法人 日本女医会会長 橋本 葉子

社団法人 日本女医会 後藤 昌子

日時 平成15年5月17日(土)

場所 京王プラザホテル

〒160-8333 東京都新宿区西新宿区二丁目一

電話 〇三(三三四四)〇一一一

評議員会 午前9時30分〜12時(昼食を含む)

選挙 午後1時〜2時

総会 午後2時〜3時

講演会 午後3時〜4時30分

講演会終了後懇親会 会費一〇,〇〇〇円

※時間は多少変更する可能性があります。詳細は次号にてお知らせ致します。

評議員会および予備評議員の改選

定款施行細則第24条により各支部において、評議員一名、予備評議員一名(再選可)を選出され、平成15年3月末日までに本部にお届けください。なお、新評議員および新予備評議員の任期は、平成15年4月1日より平成18年3月31日までとなります。

東京支部連合会による行事

5月17日(土) お茶席

子どもの性とこころ

長谷川病院精神科

吉永 陽子

発表の概要

筆者は、性同一性(ジェンダーアイデンティティ)および性的指向(セクシュアルオリエンテーション)について説明し、「いろいろあってそれでよい」という性の多様性を認める立場を明らかにした。このスタンスは、性教育に限らず筆者が講演を行う際の基本姿勢である。特に思春期世代を対象とした性教育は、この点に留意する必要がある。自我同一性の獲得にむけて歩きはじめた思春期世代が自身の「性」と向き合う際に生じるさまざまな疑問に対して大人が「かくあるべし」と規定してしまうことはできない。思春期は、将来の可能性に富み、正義感にあふれ、弾けるエネルギーをもって、大きな疑問、「私とは何んであろうか?」に挑戦する時期である。当然のことながら、その間には第二次性徴を体験し性的成熟に向けた存在であることが大きなウエイトを持って含まれている。若者たちはその答えは自分自身で見つけてこそ意義がありまた自分一人では遣り抜きたいと思っ

ている。それこそが、「自立」であり、答えを提供するのではなく、大人と一緒に答えを探す援助者である。しかし、同時に〇も×ももらえない難問に直面化すれば不安は大きく、その対処法を誤れば癒しと性行動を錯覚する恐れも大きい。最近の思春期世代の性的問題行動について、頭ごなしに「ふしたら」と叱る前に私たち専門家は科学者でありたい。なぜ問題行動がおきるのか。

性被害とそれに引き続くPTSD、暴力、自傷行為としての性的逸脱行動など長谷川病院での入院症例を提示しながら、問題行動の背景を明らかにした。思春期の心理的特徴を考慮した性教育は、治療および患者の回復に効果的であった。

感想

基調講演をはじめ、多くの発表は今後の活動にたいへん参考となった。休日、終日におよぶ長期の研修にもかかわらず熱心で真摯な聴講者に対し、わたし自身の発表にも力がこもった。討論も盛り上がり時間が足りないと感じるほどであった。

各地での取組みが実を結ぶように今後は参加者同士のネットワーキングの仕掛けや、地方会などの企画、

総合司会をして

NTT東日本東京健康管理センター

所長 荒木 葉子

今回の十代の健康指導医養成講座は、危機感が体の中に突き刺さるようなものでした。

思春期の娘の難しさを日々感じている時であり、堀口先生や渡辺先生から、十代の心身が病んでいるお話を伺い、自分は子供の危機をきちんと捉えているだろうか、と反省させられました。庄子先生の、非常におかりやすい、暖かい雰囲気のお話は、これからの健康教育を展開する上で大変役にたちました。自分が健康教育を展開し、わかってもらえることが、いかに難しいかを体験した身には、よりその手法が明確になり、すばらしい名人芸を再度体験できたことは幸運でした。

また今回は、「性」の問題が「心」と密着に結びついていることが痛感されました。私自身は、働く人々の健康支援を行っているのですが、大人の不安・うつが大変増えており、疲労、自信喪失、人や物に対する依

ワークシヨップなどより実践的な研修が必要ではないだろうか。

学ぶ機会は驚くほど少なく、アタマが軟らかく、感性豊かな十代に正しい知識と自信、他人への信頼感といったものを取得することは、生き生きとした未来形成のために重要であると思ひます。

今回の催しは「健やか親子21」関連事業であり、親子ともども学ぶ機会を提供する役目を女医会が担えるなら、すばらしいと思ひました。また、十代の健康教育、特に性教育を展開するには、さまざまなバリアがあることが浮き彫りにされました。[Love and Body]への行政やメディアの対応はその一例でしょう。性教育はリスクマネージメントである、という視点は重要であり、女医会がさまざまなバリアを打ち破る力強い健康支援の専門家集団であることを願ひます。

存、自己愛などを感じています。表面化することは少ないものの、中絶する方もおり、職業との両立というよりもむしろ自分の人生設計に無頓着、あるいは無関心で妊娠してしまつた、というケースを経験しています。キャリア形成やおしゃれについて学んでも、根本的な性や健康に対する視点が欠如している気がしてなりません。

男性も女性も同様で、自己形成の未熟さが感じられます。成人になつてから、性や健康の知識をきちんと

今年が二年目です。来年、さらに大きな活動に展開していきたいと思ひます。

「十代の性と健康」指導者養成講座 第3回

開催のお知らせ

日時 平成15年3月2日(日) 10:00〜16:00

会場 栃木県宇都宮市宇都宮市役所14階大会議場

共催 宇都宮市

後援 栃木県医師会、宇都宮市医師会、宇都宮市教育委員会

参加費 一,〇〇〇円(資料代および昼食代)

申込み FAXで日本女医会事務局まで(03-3498-8765)

平成14年度日本女医学会学術講演研修会

平成14年度学術講演研修会を開催

学術部担当理事 内潟 安子

本年の学術講演研修会は10月26日の午後、高齢者をトピックスに開催された参加者四〇名。

第一席は東京都多摩老人医療センター所長の井藤英喜先生による「高齢者糖尿病の管理と視点を問い直す」であった。井藤先生は高齢者糖尿病の研究と臨床の第一人者である。高齢者糖尿病に特別な自己管理目標はないが、自己管理するやり方を学んで実践する糖尿病治療に対してマイナスに働く要因が高齢のなかに潜んでいる。また子離れや配偶者との別れなども大きく作用する要因となる。高齢者の性格やおかれている立場(嫁姑の問題など)を理解しながら自

平成14年10月26日 於・京王プラザホテル

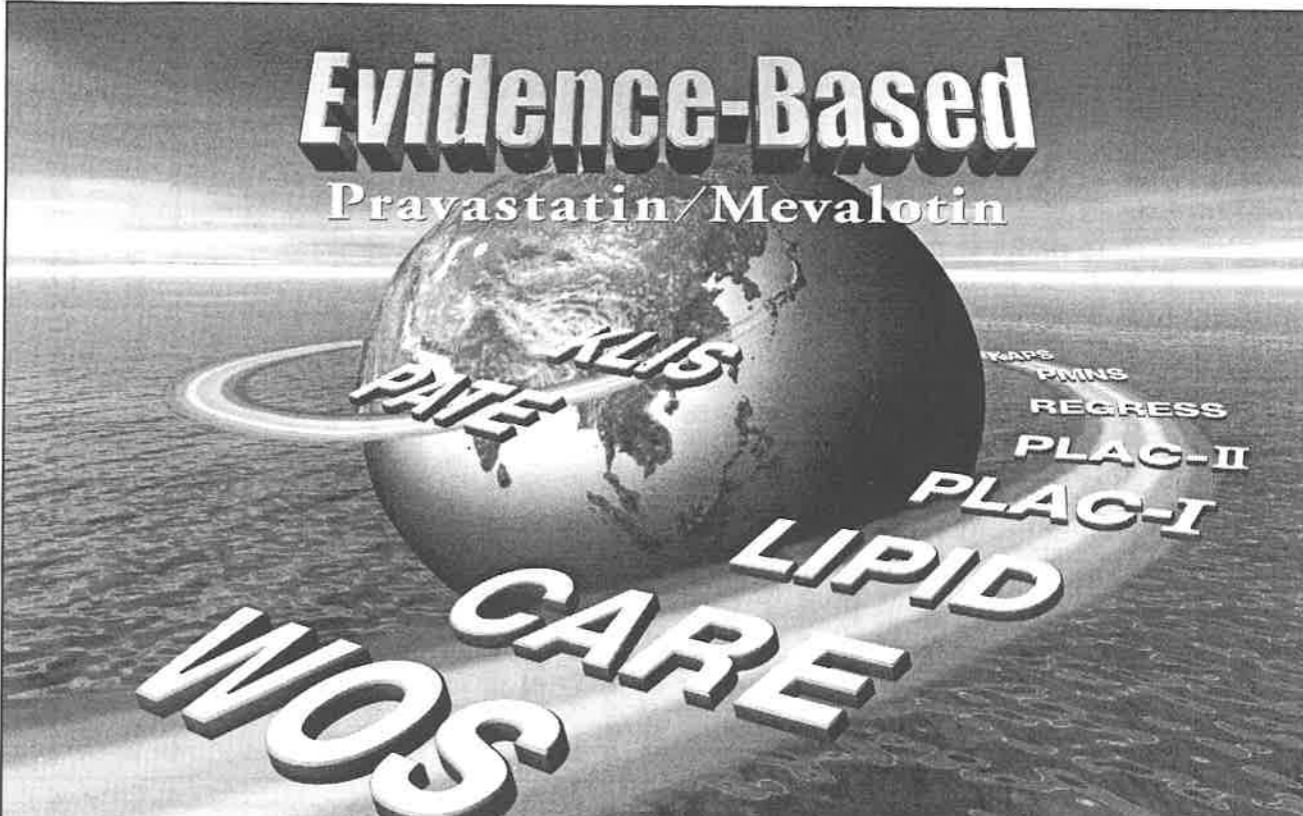


東京都多摩老人医療センター 院長 井藤 英喜

高齢者糖尿病の管理の視点を問い直す

己管理を無理なくできる環境を整えることに日々臨床家は心を砕かなければならないという内容であった。第二席は愛知医科大学加齢医学研究所の佐藤秩子先生の「細胞の老化・死と個体の老化・疾病・死についての基本的理解のために」であった。佐藤先生はいままでこそ「アポトーシ

伝統ある日本女医学会の学術講演会にお招きいただきありがとうございます。当日は、高齢者糖尿病についてお話をさせていただきましたが、その概要を以下に述べさせていただきます。日本の人口の高齢化は急速で種々の問題が生じています。その一つとして糖尿病の増加という問題があります。日本に存在する七〇〇万人の糖尿病患者のうち二六〇万人(40%)は六十五歳、一〇〇万人は七十五歳以上だと推定されています。高齢者には、慢性疾患の合併が多



世界でそして日本で..... エビデンスに基づく高脂血症治療

Advertisement for Evidence-Based Pravastatin/Mevalotin. Includes text: 【禁忌】(次の患者には投与しないこと) 1. 本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者 2. 妊婦又は妊娠している可能性のある婦人及び授乳婦... 【原則禁忌】(次の患者には投与しないことを原則とするが、特に必要とする場合には慎重に投与すること) 腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者に、本剤とフィbrate系薬剤を併用する場合には、治療上やむを得ないと判断される場合のみ併用すること... 【効能又は効果】高脂血症、家族性高コレステロール血症 【用法及び用量】通常、成人にはプラバスタチンナトリウムとして、1日10mgを1回または2回に分けて経口投与する。なお、年齢・症状により適宜増減するが、重症の場合は1日20mgまで増量できる。 【使用上の注意】 1. 慎重投与(次の患者には慎重に投与すること) (1) 重篤な肝障害又はその既往歴のある患者 [本剤は主に肝臓において代謝され、作用するので肝障害を悪化させるおそれがある。] (2) 重篤な腎障害又はその既往歴のある患者 [横紋筋融解症の報告例の多くが腎機能障害を有する患者であり、また、横紋筋融解症に伴って急激な腎機能の悪化が認められている。] (3) フィbrate系薬剤(ヘザフィbrate等)、免疫抑制剤(シクロスポリン等)、ニコチン酸を投与中の患者 [横紋筋融解症があらわれやすい。] (相互作用)の項参照 (4) 高齢者 2. 重要な基本的注意 (1) 適用の前に十分な検査を実施し、高脂血症、家族性高コレステロール血症であることを確認した上で本剤の適用を考慮すること。本剤は高コレステロール血症が主な異常である高脂血症によく反応する。(2) あらかじめ高脂血症の基本である食事療法を行い、更に運動療法や高血圧・喫煙等の虚血性心疾患のリスクファクターの軽減等も十分考慮すること。(3) 投与中は血中脂質値を定期的に検査し、治療に対する反応が認められない場合には投与を中止すること。 3. 相互作用 (1) 原則併用禁忌(原則として併用しないこと) 腎機能に関する臨床検査値に異常が認められる患者では原則として併用しないこととするが、治療上やむを得ないと判断される場合のみ慎重に併用すること。 Table with columns: 薬剤名等, 臨床症状・措置方法, 機序・危険因子. Includes text: 【その他の使用上の注意は添付文書をご覧ください。】

Advertisement for DIOVAN (Valsartan). Includes text: NOVARTIS THE ARB DIOVAN 選択的AT1受容体ブロッカー 錠80mg 錠40mg 禁煙、効能・効果、用法・用量、使用上の注意については、製品添付文書をご覧ください。 製造：日本チバガイギー株式会社 販売：ノバルティス ファーマ株式会社 東京都港区西麻布4-17-30 〒106-8618 0120-003-293 www.diovan.jp

われわれの行った調査では、高齢者糖尿病のQOL低下要因として、高血糖、インスリン治療、糖尿病性血管合併症といった糖尿病に関連する要因のみでなく、ADL低下、女性であること、経済的余裕度がなくなるなど、人との交流が少ないことなど糖尿病とは無関係の要因も重要な役割を果たすことが明らかになっています。

QOL向上を目指した医療を実践するに当たっては、それぞれの患者さんのQOLの状態、それが低下しているとするれば、その要因を正確に把握することが重要です。その手段



愛知医科大学加齢医学研究所
佐藤 秩子

細胞の老化・死と個体の老化・疾病・死についての基本的理解のために

日ごろ臨床の第一線で多くの人々の訴えや、生活習慣の現実の問題に直面されている方々にもっとも基本的な問題について話をしてみたい、というのが主眼である。総じて、「老化」は衰えるということに通じる意味を持つようであるが、考える次元によって理解は異なり、自分の考えている次元での老化の現象で、すべてが説明できると思ひ込みもある

として、ADL、精神・身体的状態、社会経済的状態を系統的に把握する高齢者総合機能評価法の実施が有用と考えられます。そこで把握できた個々の症例における問題を十分に考慮にいれた治療が必要と考えています。

また、生活機能障害はQOL低下の大きな要因となりますので、その発生子防、とくにADL低下予防といった視点からの糖尿病管理も重要と考えています。そのためには、最低週に三回は二〇分以上の歩行を心掛けるように患者さんにすすめていただければと思います。

対象になり得るものである。本質的な老化は病気ではない。平均寿命は年々伸びているが、真の老化の速度がおそくなったとしても、ヒトの老化の本質が変わってきたのでもない。乳幼児の死亡が減り、生理的老化にオーバーラップしている病的老化が予防・治療、あるいは、社会的環境が好転したために、最長寿命に次第に近付きつつあるが、死の時期(寿命)がのびているためである。百歳以上の長命者は年々増加しているが、ADLの平均値は低下してきている。疾病・痴呆はあり自立できないが、生きている状態にあるという人が、増加しているためであると考えられている。

ヒトの成人個体の総細胞数は六十兆個といわれるが、生命誕生の時は父・母からの遺伝子を持った、たった一個の受精卵である。この一個から、母親の胎内にある四十週の間には、生殖細胞と体細胞にわかれ、体細胞は、個体成熟後、別の個体との生殖により別の受精卵を作り、新しい個体の生命が誕生するが、体細胞にはそれぞれ五十八時間から、一千日の寿命が定められていて順次寿命の尽きた細胞は死んでゆき、新しい細胞が失われた分だけ補われている。この細胞寿命はそれぞれの細胞の機能・分化によって異なっている。個々に寿命が尽きて死に行く細胞の像は、

現在アポトーシスの像と考えられ、この死と再生の機序はプログラムされたものと考えられている。この個細胞死に対しての新生の能力が加齢とともに衰えてゆき、その結果、個々実質細胞の加齢に伴う減数がみられ、ひいては、実質臓器の萎縮・体重減少も起こってくる。この加齢

に伴う細胞減数が、本質的な老化に伴う細胞減数こそが、本質的な老化に伴う細胞減数である。(田内ら)

個々細胞は機能に応じて、死・新生があり、個体全体としてそれをスパーバイズする機序が働いて、一

ついている。老化そのものは病気ではなく治療の対象にはならない。よく生き、よく老いるための専門的な指導が必要なのではないか、と思うのである。老年病について考えるにしても、その基本に何があるか、を十分理解すべきか、と思ふ。

第26回国際女医学会議準備状況

会長 橋本葉子

2001年シドニーで開催された第25回国際女医学会議の総会で、次回の国際会議開催国は「日本」に決定されたことは既に報告済みであります。現在、国内の組織委員は以下の通りです。

- 会長：橋本葉子
- 組織委員会
- 委員長：石原幸子
- 副委員長：加藤悠子、橋川ふさ子
- 事務局長：平敷淳子(National Coordinator)
- 財務委員：青井禮子、川田喜代子、松本文絵、森川由紀子、山崎トヨ
- 運営委員：鹿田儀子、清水洋子

- 田中蘭子、角田由美子、久田タカ、山本蒔子
- 学術委員：内湯安子、澤口彰子、山本織子
- 広報委員：大坪公子、松井ひろみ、山崎康子
- 社交委員：野澤良美、丸茂晶子、村田郁、吉崎喜美子
- 学術プログラム委員には組織委員会の学術委員の他に十五名の会員、一名の看護協会役員の方に委員を委嘱しております。2003年5月に役員改選が予定されておりますので、組織委員の変更があるかも知れません。

既に1st circular は国際女医学会

盟国に発送され、国内でも女医学会員、医科大学、看護系大学に発送されました。第26回国際女医学会議の主なテーマは「Medicine in a New Life Style—medicine, education and research」であり、サブテーマは ①Problems related to social structures and socioeconomic ②Life style related diseases—diabetes, obesity, hypertension, sleeping disorders, eating disorders and so forth ③Telemedicine, telecommunication, internet education and digital charts ④Biogenetics and immunology ⑤Challenges of women physicians ⑥Others, free papers となっております。

下準備は整っております。既に数名の会員からの寄付も頂戴しております。個人の寄付に関しましては免税措置がとれておりますので、いつでも受け付けます。よろしくご協力の程お願い申し上げます。

第53回WHO西太平洋地域会議に出席して

ナショナルコーディネーター 平敷 淳子

本会議は京都国際会議場において2002年9月16日から20日までおこなわれ、台湾女医学会の会長 Dr. Kai-Yee Lee にも出席させていただきました。国際女医学会が国連NGOの所属団体であるところから、地域会議には開催地域からの積極的な参加を会長 Dr. Shelly Ross が呼び掛けてくださった。

馬しないとも表明し、一時会場にはどよめきが起った。

本会議の日本開催は1953年から数えて四回目。最初の参加国十三が今回は三十三の国とほぼ同数のNGOやNGOのメンバーが参加していた。

MWIAの活動を報告するチャンスもあったのであるが、私が知らなかったため、演説の機会は逃してしまい残念に思っている。次回の代表参加者は是非MWIAや日本女医学会の活動を発表していただきたい。

会議ではWHOの掲げる重点項目、結核、ポリオ、エイズにつき各国の取り組みや成果の報告とこれからの活動に対する予算の激しい要求が議論されていた重点項目の一つとしてgenderの問題も大きくクローズアップされていた。くしくもMWIA、

会期は2004年7月28日(水)〜8月1日(日)、会場は東京の京王プラザホテルを予定しております。日程は別紙の通りであります。現

2002年10月作成

広範囲経口抗菌薬

ガチフロ錠100mg

〈ガチフロキサシン錠〉 (注) 注意—医師等の処方せん・指示により使用すること

GATIFLO[®] ■薬価基準収載

新発売

※ 効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等については添付文書をご参照ください。

販売元 (資料請求先) **大日本製薬株式会社** 〒541-0045 大阪市中央区道修町2-6-8

製造元 **杏林製薬株式会社** 〒101-8311 東京都千代田区神田駿河台2-5

2004ではgenderのワークショップを予定しているところから専門をこえて興味深く拝聴してきた。今回で西太平洋地域の Director

第10回「中東女性交流」に参加して

ナショナルコーディネーター 平敷淳子

2002年10月初旬、私はヨルダンのアンマンにいた。朝5時、街からコーランが聞こえてきた。TVのスイッチをオンにすると、ABCやCNNのニュースはアメリカのブッシュ大統領が、今にもイラクに攻め入るような演説を報じていた。イスラム教徒93%、キリスト教徒7%の比率でお互い共存している静かな街アンマンには、生意気な表現が許されるのなら、アメリカのTVの内容はあまりに時空間的に懸け離れており、スケールが小さすぎた。

「中東女性交流」はヨルダンのバスマ王女の来日を機会に外務省からの要請を受けて国連NGO国内婦人委員会が日本側の受け入れとなり、1996年からすでに六年続けられているプログラムである。本年は日本女医会が受け入れ担当となり2003年の2月17日から25日までヨルダン・エジプト・パレスチナから

を去る小見先生ご主催の晩餐会にも出席させていただき前半一・五日の会議に参加し、京都をあとにした。

それぞれ三名の方々をお世話する年である。

橋本会長を団長として日本女医会からは山本織子理事と私の三名。その他の団体から三名の計六名での視察の旅であった。橋本会長はすでに本年3月に、私たちの前の受け入れ担当である女性法律家協会の方々の中東を訪れておられた。中東と聞いただけで、私の心は弾んだ。縁があり、イラン放射線学会に過去三回お招きにあずかっている。青、黄、白のタイルできれいな紋様の描かれてあるモスクの外は宗教を離れ、芸術作品として充分に魅惑されていた。私にとっての中東はこのモスクの彩りであった。ところが、ヨルダンは中東ではあるが、シリア、イラク、レバノン、エジプトなどともアラブ諸国と彼らは括っていた。ヨルダンはイラクの東南、親米国シリアの南、ヨルダン川西岸やゴラ

ン高原までわずかな距離に位置する。石油はイラクからすべて購入しているという地域性から、今回のアメリカイラクの情勢には極めて鋭敏に反応している国と思いきや、木も草もない赤茶けた土地に四本の柱(棒)をとめた布がはためいているペドウィンの住居。その回りでゆっくりと動き回っている羊の群れ。一方で英語を流暢に話す American University of Beirut 出身の医師たち。そのコントラストが地球なのではない。

ヨルダンのモスクは決して色彩豊かではないが、マダバ(Madaba)にある聖ジョージ・ギリシヤ正教会本堂には6世紀に作られたという石のモザイクでできた「エルサレム地図」を今でものこしている。石の文化の威力は訪問したことのあるイランのエスファファン、ペルセポリスやエジプトの遺跡でも感動させられていたが、21世紀のこの地域の紛争をおもいつき人間の知恵の進歩のなさ、愚かさを感じずにはいられなかった。

会議はヨルダンでは、女性総連盟、エジプトではカイロ大学医学部(医学部長は女性)が受け入れ責任団体となり、意見交換、発表、病院見学、厚生大臣への表敬訪問、公的私的なSocial activityなど秒刻みの計画が綿密にたてられていた。

「女性が、女性を持ち上げる。」というお話に感激し、もっと早くに会に入会していれば、女性の先輩のいない医局で苦勞をするにしても気分はもっと楽であつたらうという印象でした。また石原副会長の女性を中心

「日本消化器病学会女性医師・研究者の会」の紹介

代表世話人 中澤 晶子 (山口大学名誉教授)

「女性性、女性性を持ち上げる。」というお話に感激し、もっと早くに会に入会していれば、女性の先輩のいない医局で苦勞をするにしても気分はもっと楽であつたらうという印象でした。また石原副会長の女性を中心

となつて医療活動をするというお話に共感しました。女性特有の病態に感じた医療もこれを機会に知りたいと思ひました。「女性だけ」ではなく、「女性だから」できる医療を目指したいと思ひています。

平成14年10月25日、DDW-2002の期間に第1回集会を開催し、約五十名の参加を得ました。調査委員会から、女性医師の割合が全体では14・3%、二十九歳以下で31%と増加していること、日本消化器病学会会員における女性の比率は5・9%であり、発表演題数もこれと大差ないが、学会役員の中で女性の占める割合は2・4%と低いことなどが報告されました。

「女医会って正直言ってその存在は知りませんでした。出席させていただけでよかったです。」と、出席させていた。医療というものが次第にサラリーマン化されつつあると案じる今日このごろ、久しぶりに医療というものが、さすがにさしに出席することができました。遠路はるばる米子まで来ていただき本当にありがとうございます。安部睦美先生。

平成14年10月25日、DDW-2002の期間に第1回集会を開催し、約五十名の参加を得ました。調査委員会から、女性医師の割合が全体では14・3%、二十九歳以下で31%と増加していること、日本消化器病学会会員における女性の比率は5・9%であり、発表演題数もこれと大差ないが、学会役員の中で女性の占める割合は2・4%と低いことなどが報告されました。

本交流を可能にしてくださった外務省中東第一課、在ヨルダン・エジプト大使館、国連NGO国内婦人委員会の方々から感謝の意を表したい。

【中東女性交流】日程(案) NOV. 11. 2002

月 日			宿泊
2/17(月)	成田着 バスで京王プラザへ	外務省ブリーフィング 橋本会長招宴 (椿山荘)	東京
2/18(火)	皇室関係・外務省・ 厚生労働大臣 表敬訪問	? Welcome party (京王プラザ)	東京
2/19(水)	Closed session (京王プラザ)	? Welcome party (京王プラザ)	東京
2/20(木)	病院見学		東京
2/21(金)	名古屋へ移動 市民公開講演会	懇親会	名古屋
2/22(土)	Excursion		名古屋 (鳥羽)
2/23(日)	東京へ移動	? Jordan 大使公邸	東京
2/24(月)	Free time		東京
2/25(火)	離 日		

第6回ブロック別懇談会に出席して

鳥取支部 堀 郁子

平成14年11月10日、鳥取県米子市米子国際ホテルにて第6回ブロック別懇談会が開催されました。その前日はたいへんな寒波で、稀にみる早い初雪でしたが、当日は平年の気候になりました。橋本会長ほか理事計五名がご出席

の意識、医療社会、労働環境、家庭と仕事の両立などの問題点が整理されました。これらの報告を受けて第1回集会では「日本消化器病学会女性医師・研究者の会」への期待―私たちに何が出来るか―をテーマに討論し、アンケート調査の問題点などについて意見交換を行いました。今後関係団体との連携もはかりながら、本会の目的に添ってさらに活動していきたいと思ひます。

なお、本会の発足ならびに運営にあたり、日本消化器病学会の竹本忠良名誉理事長、藤原研司理事長、ならびにDavid Graham海外名誉会員の諸先生に顧問として多大のご支援をいただいておりますことを申し添えます。

(連絡先) 和歌山大学保健管理センター 塩谷昭子 FAX: 073-457-7970 E-mail: shiotani@center.wakayama-u.ac.jp

新医学用語辞典

ECMO (Extra Corporeal Membrane Oxygenation)

呼吸器疾患の一般療法を長く続けると、病態の進行によっては治療法に限界が来る。そこで1960年代後半に登場し、余り歓迎されなかったECMOが再登場してきた。これは、循環する血液の大部分を体外に誘導し、そこで人工的にガス交換し、その後体内に還元する方法を数日から4週間前後という長時間にわたって行う治療法である。

この方法は最初は成人を対象に行われたが、成人の病態は不可逆性であることが多いため、あまり救命の目的は果たせていなかった。しかし、ECMOは1980年代から主に新生児を対象に急速に発展してきた。それは新生児の呼吸障害が重篤な1週間程度の間、病んでいる肺や気管支に安静(lung rest)を与えるというECMOの適応となったからである。この効果が明らかになるにつれ、小児にも適応範囲が広がり、成人に対するECMOの見直しが始められている。現在、ECMOは呼吸・循環障害に対する画期的な治療法と考えられている。

《書籍紹介》

高柳哲也編 『介助犬を知る』
―肢体不自由者の自立のために―

会長 橋本葉子

本書は、奈良県立医科大学名誉教授・日本介助犬アカデミー理事長の高柳哲也先生が班長であった「厚生科学研究障害保健福祉総合研究事業介助犬の基礎的調査研究班」に加わった多くの方々の協力を得て、研究対象を①人・障害、②社会、③犬の三群に分けて調査研究した結果、介助犬が「生きた自助具」であること、をあらかじめし、まとめられたものである。おおくの著者によって述べられている介助犬の多面性は、この問題のむずかしさと複雑さを示している。
高柳名誉教授は「平成14年5月22日」
王瑞雲著
名古屋大学出版会
定価(本体二、八〇〇円十税)

《書籍紹介》

『少女はすぐに母となる』

神奈川支部 山崎康子

大分前のことになるが、朝日新聞の家庭欄に、独自の「自家カルテ」くり診察している女医さんの記事が

連載されていた。かわったところみをしていの方だと思つて拾い読みしていたが、診察というよりも生活指導、食事指導にとても熱心な、そして、漢方を使っているということ、中国のドクターだと信じていた。

今回の著書を読ませていただき、私の母校、東京女子医大を卒業し、東大小児科医局にて研修を積んだ方だと認識した。独自のアプローチで診療所を訪れる患者さんたち、あるいは訪問者の方たちに接していらっしゃるエネルギーに尊敬の念を新たにしている。

子連れ女医・フランス留学記

都下西支部

増子(本郷)佳世

(聖マリアンナ医科大学難病治療研究センター)

卒後臨床研修の後研究生活に入り、結婚して二人の子供を年子で産み、てんやわんやの生活を送っていた内科医の私が、機会を得て一年間フランスに留学してきました。今回、女医学会のご厚意により、留学体験記を掲載させていただけることとなりました。第一線で働く女医が子連れで

どである。私の診療所でも、ごくまれに、とてもプライベートな相談をうけることがあるが、ただ患者さんのはなしに耳をかたむけることが、治療になるのではと考える、たまにあいつちをうつつのみで黙って聞くようにしている。
王先生は、食事の内容を非常に重視していられたが、私もその考えには心から賛同した。親子の愛、夫婦の愛、手作りの食事が次世代をなう子どもたちに充分に与えられてこそ、日本の未来があるのだとうなずかされる。

発行・樹心社 発売・聖雲社
定価(本体一、五〇〇円十税)

子供について

私の場合子供二人を連れての留学でしたので、子供の受け入れ先について、インターネット、大使館、留学関係の本などから情報を集めているいろいろ考え、結局日本人幼稚園に入園させました。パリのような大都会では、こういう日本人向けの施設もありませんが、留学が長期になる場合には現地の施設に入れるかどうか考へるところです。またベビシッターに関する情報も必要になります。これは子供の性格、留学期間、日本語教育、費用の面などから判断することになります。

研究生活

私はパリ第六大学にresearch fellowとして通いました。家事や幼稚園の送迎があるので、朝から夜遅くまで研究に没頭するわけにはいきませんでした。設備もやり方も大きく異なる外国の研究室で、フランス人のスタッフに囲まれての研究生活はたいへん興味深いものでした。もちろん、最初からすべてうまくいったわけではなく、言葉(フランス語)の壁や、パリジャン(パリジェンヌ)特有のつつきにくさがあり、とまどいました。器具がちがうと、実験で思うような結果を出すまでに時間がかかるともかんじました。また当然、子どもの病気や幼稚園のお休みのときにはピンチに陥りました。子連れですとどうしても時間的な制約があります。それを克服するのに、大切ではないかと思う点をあげてみます。

①短・中期の留学の場合、目標をあまり高く持ちすぎないこと。たとえ言葉ができて、環境に慣れるには時間がかかります。日本にいるときのように仕事をするには数年かかると思え、とある在仏日本人にいわれましたが、そのとおりだと思います。
②自分の状況を留学先に伝え、理解してもらつこと。私は留学を申し込む際、最初からはつきりと、子連れであるため夜間休日の実験はできないことを伝え、了承してもらいました。また、幸い同僚の協力も得られました。ただし、その条件の中で一杯、結果を出す努力をすることが重要です。
③時間をうまく使うこと。私は幼稚園に時間通りお迎えに行くため、昼食の時間を削って(バゲットを片手でかじって?)実験しました。自宅でできる書き物、文献検討、日本のラボとの連絡などは子供たちが寝てからの時間を使いました。
④留学で納得のゆく成果を得たいのであれば、短期であればあるほど日本にいるときからそれなりの(高度の、という意味ではありません)実力ないし技術を蓄えておくことが必要です。語学(英語)はできて当然で、できなければ話になりません。その意味で、自分自身に対しての留学の動機づけが、子連れの場合には単身者以上に必要なのではないでしょうか。

⑤最後に、一緒に外国生活を体験する家族の相互理解と協力がなければ、留学生活は難しいものとなります。心身の健康管理を重視し、当初のストレスを乗り越えて、親も子も楽しかったと思える外国生活を送ればどんな成果にもまさるかもしれません。
大変だったけど、また行きたいな!

日・中友好チヨウ・オユー

女子合同登山隊2002

―日中国交回復30周年記念、国際山岳年記念―

東女医学内支部

橋本しをり

日中国交正常化三十周年ならびに国際山岳年を記念し、大学山岳部を母体とする日本山岳会として初の日本と中国の女性による合同登山隊(日・中友好チヨウ・オユー女子合同登山隊)が組織されました。チヨウ・オユー峰は、中国ネパール国境

にそびえる堂々たる風格をもった秀峰で、世界第六位の高峰(八二〇一m)です。チヨウ・オユー峰自体は現在ではポピュラーな山であり、多くの日本人にも登られています。女性による二カ国の合同チームが八〇〇〇m峰登山を行ったケースは世

界的にもきわめてまれであり、参加する日本側隊員にとっては、これまで情報の乏しかった中国の女性登山者と接し、彼女らと友好を深めることで大変貴重な体験が得られました。この登山隊に日本側隊長として参加し、中国隊との交渉に際しては、日本人にありがちな曖昧な表現ではなく、欧米人のようにはっきりと意思を伝えた方がよいということを感じました。

登山の行程は、8月6日に日本を出国し、バンコクを経てカトマンズ入りし、8日から16日まで、ネパール国内にて高所順応活動を行いました。



前列左から二人目が筆者。前列右から二人目が中国の女医さん。



た。その後、20日にラサに移動し、中国隊と合流し、25日にベースキャンプ入りしました。9月1日より登山開始、高所順応しつつ、C1、C3のキャンプを設営し、天候に恵まれない時期もありましたが、私自身はC3キャンプ(七五〇〇m)まで行きました。アタック隊(一次・二次あわせて日本隊四人、中国隊五人)は10月1、2日の二日にわたり、南西稜からの登頂に成功しました。登山は成功裡におわり、チベットの首都ラサにもどる盛大な祝賀会が催されました。そこでチベット人民政府の副書記長が北京の医学部出身の女性であることがわかり、より交流を深めることができました。

理事会議事録

日時：平成14年7月27日(土) 午後3時より

場所：日本女医学会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、橋川、青井、内潟、大坪、澤口、鹿田、清水、角田、久田、平敷、松井、村田、山崎(ト)、山崎(康)、山本(纈)、山本(時)、吉崎、野澤、松本 (以上22名)

欠席者：川田、田中、丸茂、森川 (以上4名)

6月理事会議事録を承認

報告事項

- 一、庶務報告 久田理事
別紙どおり報告、承認される。
二、会計報告 青井理事
平成14年6月分収支別紙どおり報告、承認される。
三、各部報告

【事業部】

・8月25日開催の「女子医学生と女性医師のシャッフル」について——講師及び予算の説明。

【広報部】

・会誌171号「百周年記念特集号」は会員に発送済み。
・百周年記念式典のビデオは三〇〇本作成し、出席者全員に無料で配布

できる見込み。雑誌「JMS・日本女医学会百周年特集号」も全員に無料で配布する。
【学術部】
・10月に高齢者に関する学術講演会を開催予定。
澤口理事

協賛事項

- 一、国際女医学会の進捗状況件
・皇室関係は厚生労働省を通じて交渉する。
・「募金趣意書と予算案」について9月理事会前に会計部と庶務部で会合を持つ。
・Scientific Program Committeeの第1回会合は8月25日開催の「女子医学生と女性医師のシャッフル」終了後に開催する。
・薬書サイズ宣伝用チラシで五千枚作成済み。
・ICSにより2004年国際女医学会のホームページを作成済み。
・2004年・東京の紹介は国際女医学会本部のfirst circularにも掲載されている。
・東京都庭園美術館訪問をアトラクションの一つとして考えている。
・役員によるOrganizing Committee(案)を検討する。
・参加する学生には8月25日の第1回会合に出席してもらう。
二、百周年記念事業の会計報告 現在までの収入は四六、四三三、七五五円あり、支出は約三九、二四三、四

理事会議事録

日時：平成14年9月21日(土) 午後3時より

場所：日本女医学会会議室

出席者：橋本、石原、加藤、大坪、澤口、鹿田、清水、角田、久田、平敷、松井、村田、山崎(ト)、山崎(康)、山本(時)、野澤 (以上16名)
欠席者：橋川、青井、内潟、川田、田中、丸茂、森川、山本(纈)、吉崎、松本 (以上10名)

7月理事会議事録を承認

報告事項

- 一、庶務報告 山本(時)理事
別紙どおり報告、承認される。
二、会計報告
担当理事欠席につき次回に報告。
三、各部報告
【庶務部】
・平敷理事の尽力により11月10日(日)

午後1時から3時まで、米子で開催される「第6回ブロック別懇談会」について説明。理事多数の出席を要請。橋本会長、石原副会長、鹿田理事、清水理事、平敷理事、山本(時)理事が出席予定。
【事業部】 平敷理事
・8月25日開催の「女子医学生と女性医師とのシャッフル」の報告と会計報告。少人数の出席ではあったが大変有意義な会であった。
【渉外部】 松井理事
・8月9日「男女共同参画推進連携会議第13回会合」に出席の報告。
【広報部】 大坪理事
・会誌172号の割付会議を9月27日に開催予定。「JMS」は会員全員に、「百周年記念式典ビデオ」は式典出席者に送付したとの報告。
協賛事項
一、2004年国際女医学会の件
配布された資料に基づき、平敷理事より説明。
・7月28日のランチタイムレセプションに天皇・皇后両陛下の行啓を厚生労働省を通して仰ぎたい。
・8月31日に行った「第1回予算委員会」で登録費は一般は三万円、学生は一万円に決定、趣意書もでき東薬工を訪問予定。
・「第1回プログラム委員会」を8月25日に開催し、基調講演者として「緒方貞子氏」と「向井千秋氏」

が候補に挙がった。
・東京都庭園美術館訪問、ガラディナー、アトラクション等の具体的案を検討中。
・7月30日は四、六名の小グループで病院訪問を計画。
以上を諮り、今後、継続して検討する。
二、子育て支援小委員会より
・前回の理事会で討論した「『十代の性と健康』指導医養成講座第2回」変更案は理事にFAXによる賛否を取り、賛成多数で原案通りに開催されることになった。
10月6日に主婦会館プラザエフで開催される。現在の所八十六名の申し込みがあるが、理事からも多数の出席を要請。
・来年度は申請三年目の最終年でもあるので、一貫した事業継続のため今後の運営は子育て支援小委員会に一任することに決定する。
・評議員への性教育用ビデオに関するアンケート結果の報告。
・今年度中にもう一度養成講座を開催の必要があり、理事の中で開催可能な支部があるか否か語る。山崎(ト)理事の栃木支部が候補に挙がる。
三、その他
①荻野吟子女史生家長屋門復元修理への協力について
・以前に日本女医学会よりまとめて一〇万円寄付をしたが、資金不足のため

め日本女医学会会員に一口三千円募金願いを広報したいとの申し出があった。10月25日発行の会誌に募金趣意書を同封することを承認する。
②ウェブサイトのドメイン名について
・一、二の候補よりjokai-associate.jpに決定する。
③「健やか親子21」から
・SIDS対策強化月間の協力団体として承知したとの報告。
・「妊娠・出産に関する安全性と快適さの確保と不妊への支援」出席者を募ったが、全員出席不可能であるため、資料を請求する。
④「The R」よりセクシュアル・ハラスメントに関するカウンセラー養成の協力依頼があった。日本女医学会の事業として小委員会を作り前向きに検討する。
⑤N.P.Oの団体より、生命保険加入紹介の要望があった。2004年国際女医学会への寄付になるので、個人的に協力する。
⑥子育て支援小委員会より10月6日の「『十代の性と健康』指導医養成講座第2回」に受付等の手伝いができる理事の協力を要請。鹿田理事、松井理事、村田理事、山崎(康)理事が出席し協力、医療班として、山崎(ト)理事が協力。
(ト)理事が協力。
⑦大坪理事より百周年記念事業の特集をした「JMS」の残部が多数あ

るので、寄付者で未発送分や、非会員への宣伝用として希望の方は申し出てほしい。
⑧平敷理事より
・来年4月に福岡で開催される第26回日本医学会総会シンポジウム「わが国における女性医師を取巻く環境(Cast, Present and Future)」に橋本会長が演者、平敷理事が司会者として出席予定。9月16日、20日に開催された「第53回西太平洋地域会議WHO」に出席の報告。
・山本(時)理事を庶務部と事業部との兼任することに理事会の承認と協力の要請があり、全員賛成する。
・2004年に平敷理事が次期国際女医学会会長に立候補したい旨の意志表示があり、協力の要請。日本女医学会として全面的に応援する。
⑨加藤副会長より
来年4月4、6日に福岡で開催される第26回日本医学会総会に多数の出席を要請。
⑩橋本会長より
来年11月に開催される臨床眼科学会「女性医師へのサポートに関するシンポジウム」の基調講演依頼があったとの報告。
以上
副会長(庶務部担当) 石原
鹿田、清水、久田、山本(時)

理事会議事録

て、地方での受け入れ先は名古屋で検討する。
・学術講演会講師として井藤英喜先生(東京都多摩老人医療センター)と佐藤秩子先生(愛知支部)を検討中だが、他に候補者がある場合は女医会事務局まで知らせてほしいと希望があった。
以上
副会長(庶務部担当) 石原
鹿田、清水、久田、山本(時)

日時：平成14年10月26日(土) 午後2時より
場所：京王プラザホテル
出席者：橋本、石原、加藤、橋川、内潟、大坪、川田、鹿田、清水、久田、平敷、村田、森川、山崎(ト)、山本(時)、山本(纈)、吉崎、野澤、松本 (以上18名)
欠席者：青井、澤口、田中、角田、松井、丸茂、山崎(康)、松本 (以上8名)
理事会に先立ち、「ゆうゆう糖尿病」の現況について、ケンコー情報K・近藤社長、特別編集担当・大森安恵先生及び橋本会長より説明があった。
9月理事会議事録を承認
報告事項
一、庶務報告 久田理事
別紙どおり報告、承認される。
二、会計報告 川田理事
平成14年9月分収支別紙どおり報告、承認される。また先月報告できなかった14年7、8月分の収支も承認される。
三、各部報告
【学術部】 山本(纈)理事
・本日開催の「平成14年度学術講演研修会」は五十五名出席予定。懇親会の申込者は三十一名。
【広報部】 大坪理事

・会誌172号を送済済み、第173号の原稿を募集中。

・会誌掲載の広告募集に協力を要請。

・協議事項
一、2004年国際女医会議の進捗状況

平敷理事より別紙資料を参考に報告があった。

・前回理事会で承認された「皇族のご臨席」について、MWIA本部からも快諾を得た。

・募金趣意書作成済み。会誌に記載し、会員へ通知する。

・東薬工、大薬協へは2003年3月以降に寄付依頼に伺う。

・基調講演・講師として緒方貞子氏に依頼状を送付予定であったが、在米中であるため、12月以降に依頼状を送送する。緒方貞子氏が不可能の場合は向井千秋氏に依頼をする。

・Plenary session, Gala party は別紙通りに順調に計画中。

・Congress バッグ、記念品は事業部に一任する。

・First circular は残部が二千部あるので3月下旬までに配布の協力を依頼。

二、中東女性交流訪問団受け入れの件

2月17日～25日受け入れの正式要請があった。詳細は外務省より連絡を受けてから決める。可能なら皇族への表敬訪問を外務省を通じ、厚生

労働省への表敬訪問を厚生労働省を通じて依頼する。山本(續)理事より、名古屋での準備状況の報告があった。

三、子育て支援小委員会からの報告

加藤副会長より、10月6日に開催された「『十代の性と健康』指導医養成講座第2回」が成功裡に終了したとの報告。会計報告とアンケート結果の発表があった。山崎(ト)理事より、第3回開催を来年の2・3月頃、宇都宮市で受け入れの承諾があった。詳細は今後検討する。

四、その他

・丸大ハムより「お歳暮のお知らせ」を会員へ送付したい旨の申し出があり検討する。2004年国際女医会議への寄付の意味もふまえ、賛成多数で許可する。今後「賛助会員」についても検討する。

・平敷理事より11月10日米子で開催される「ブロック別懇談会」は松江市民病院勤務・堀郁子先生が準備して下さっている旨の報告あり。

・宮城支部支部長の小田先生より「日本女医会の役員任期」についての提案があった。来年は役員改選年であるので、2004年国際女医会議組織委員の人選も含めて次回理事会で検討する。

・2004年国際女医会議の登録料が高額との意見がエジプトよりあった。登録費は変更せず、代わりに抄録提出者には助成金補助の方法等、

今後検討する。そのためにも多くの寄付を集める。

・厚生労働省の立入検査実施の連絡があった。日程は未定。

以上
副会長(庶務部担当) 石原 鹿田、清水、久田

会員動静 (敬称略)

◇新卒新入
八巻 絢子 神奈川

石澤 恵 愛 知

玉置 千勢 和歌山

◇入会
黒澤 真澄 (昭和62年卒) 神奈川

小関 温子 (昭和39年卒) 神奈川

石田由依子 (平成3年卒) 板 橋

黒坂 掬子 (昭和33年卒) 葛 飾

諏訪 迪子 (昭和48年卒) 渋 谷

白川 理香 (平成13年卒) 世田谷

平野 真理 (昭和51年卒) 中 野

麦島 真理 (昭和57年卒) 練 馬

村井 裕子 (平成3年卒) 練 馬

渡辺 文枝 (昭和63年卒) 練 馬

高村 悦子 (昭和54年卒) 東女学内

宮田 章子 (昭和51年卒) 都下西

渡邊 芳江 (昭和61年卒) 山 梨

大野 孝子 (平成4年卒) 愛 知

蒲澤 知子 (昭和47年卒) 新 潟

近藤 陽子 (平成5年卒) 兵 庫

富樫 理子 (昭和60年卒) 佐 賀
原野 裕子 (昭和52年卒) 佐 賀
◇退会者 5名
◇物故
坂田 フミ (昭和23年卒) 北海道
飯塚 治子 (昭和18年卒) 埼 玉
原田チイ子 (昭和15年卒) 愛 知

山本美代子 (昭和12年卒) 愛 知
草間富美子 (昭和20年卒) 長 野
芦沢 久子 (昭和24年卒) 福 井
三村 愛子 (昭和22年卒) 岡 山
山本 節子 (昭和19年卒) 熊 本

集 記
編 後

新年あけましておめでとうござい
ます。
本年、医療情勢はますます厳し
の度合いを強めることと予想されま
す。女医会は、昨年の創立百周年記
念行事に続き、来年は国際女医会議
開催の年にあたります。橋本会長は
じめ理事一同、昼夜心を砕き会議の
成功に向けて進行中です。といっ
ても全会員の協力なくして、その成
果は得られないでしょう。これを機
に、周辺の女性医師に日本女医会
参加を呼びかけていただきたいと思います
に希望しております

東京にいながらにして、世界中の
女性医師と親しく意見を交換でき
願ってもないチャンスだと考えてお
ります。専門職としての女性が、そ
の各自の意見を一つにまとめて、大
きく社会に呼びかけ、社会に参画し
社会を動かす場にもっともふさわし
わしい場が日本女医会であると自負
しています。
女医会誌がお手元に届いたときに
はぜひ誌面を二読くださり、今後
の女医会の行動にご注目いただき
いと切に願っております。

(山崎)



日 本 女 医 会 誌
第 173 号

平成 15 年 1 月 25 日 発行
編集人 大坪 公子
発行人 橋本 葉子
制作 金剛 剛出版
発行所 社団法人 日本女医会
東京都渋谷区渋谷2-8-7
青山宮野ビル 電話 03-3498-0571
〒150-0002 FAX 03-3498-8769
http://www.jade.dti.ne.jp/~jmwaw/
e-mail address: jmwaw@jade.dti.ne.jp